

2015 年ミラノ国際博覧会 (EXPO Milano 2015) 出展

2015 年ミラノ国際博覧会(EXPO Milano 2015)「日本館」の中で香川県が県産品を P R することになり、庵治石製品においては「第 28 回技能グランプリ」出場者に声が掛かりました。

日本産最高級花崗岩である庵治石の美しさとその表情の違いを、一枚の絵と共に日本らしさを感じて頂ける壁材として考えました。



出展作品：壁材「庵治石花と流水」

コンセプト

庵治石に描いている ^{かきつばた} 花は燕子花、流水は観世水です。燕子花は丁度開幕時期の 5 月から 6 月の初夏の季節に湿地に花を咲かせるアヤメ科の植物です。洗練された形状は絵画や着物のモチーフとしても多く使われ、文化人たちにも愛されてきました。代表的なものに琳派の巨匠、尾形光琳手がけた『燕子花図屏風』があります。『燕子花図屏風』のモチーフとなった伊勢物語の第九段「八橋」には句の頭「かきつばた」を詠みこんだ在原業平の和歌が登場します。この和歌に因んでなかなか来ない恋人を待つ気持ちを詠んだ歌が多いことから、「幸運は必ず来る」という花言葉ができたと言われています。

観世水という文様の呼び名は、能楽の流派、観世家が定紋に使ったところからきていますが、流れる水を表しています。悠久の時を経て流れ続けながらも、その姿をとどめる川の水は、無限の動きと時間の象徴し、その様子をあらわした流水文様は止まることのない未来永劫をあらわす吉祥文様です。

「流れる水は腐らず」。常に新しく入れ替わりつつも清らかな姿をとどめる水の流れに、理想の姿を見たのだと思います。「伝統」というものも大きな流れを守りつつも、常に新しい変化を作り出すことで、悠久の時を越え花開き続ける存在になるのではないのでしょうか。

使用材料

庵治石細目・庵治石中目・庵治石錆
きめが細やかな地肌であるがゆえに風化に強く、磨けば磨くほど艶を増す庵治石。
その最大の特徴は、「斑（ふ）が浮く」という現象です。表面は、黒雲母の入り混じったまだら模様。磨くほどに濃淡が浮き出て、平坦な表面に奥行きを感じさせる二重のかすり模様を見せてくれます。その模様は、舞い落ちる桜の花びらにも例えられ、縁起物としても珍重されてきました。

仕上げ

本磨き + ブラスト彫刻

ミラノ国際博覧会概要

会期：2015 年 5 月 1 日～ 10 月 31 日
香川県出展期間：8 月 29 日～ 9 月 1 日
会場：イタリア共和国 ロンバルディア州ミラノ県ロー市
参加予定国数：147 カ国・地域・国際機関（平成 26 年 10 月現在）
公式サイト：<http://expo2015.org/en>（英語）



石のメッセージを知っています。

株式会社 大川石材

〒716-0121

香川県高松市牟礼町牟礼2775番地13 Tel 087-845-9640 Fax 087-845-7510
E-mail info@ookawasekizai.com URL <http://www.ookawasekizai.com/>